

橋 詰 良 一 著

「家なき幼稚園」の主張と実際  
より

(二)

第三 名のおこる所以

私が大正十一年の春に、私の居住地の池田室町という新市街（大阪から北へ四里、阪急電鉄沿線、当時戸数約二百戸）へ配布しました、私の趣意書を見ていただければ、大体のことがわかっていただけると存じます。

△『家なき幼稚園』の発起

室町父兄たちの御精読を切に希望いたします。

家はなくても幼稚園はできます、生き生きとした保育の方法を考えて行きましたら、家に囚われた幼稚園よりも、家のない幼稚園の方が幼児にとっても幸せかもしれ

ません。

家のあるためにその家にばかり閉じ込められたり、箱庭のような運動場にばかり追い込まれて、めったに野へ出ることも山へ行くこともできないような大阪あたりの幼児は不幸せです。

広い広い自然を占有している郊外住宅地の人々が大阪あたりの真似をして窮屈な家を建てることから手を着けなければ幼稚園ができないように考えるのはつまらないことだと思えます。

工夫のつけかたによっては「家なき学校」でも立派にできるものだと考えていますが、保育にあつては特に「家なき幼稚園」が自由で簡単に愉快だと思われま

私は野天教育、野天保育などという言葉が衛生家の立場か

ら臨時のものとしてのみ唱道されることを飽き足りなく思っているでございます。

で、思い切って室町のお子さんたちに先ずこの「家なき幼稚園」を捧げたいと思うのでございます。

我が日夕尊敬しつつある大阪毎日新聞社長本山彦一翁は、非常の喜悅を以て左の辞を寄せられました。

家なき幼稚園、これは非常に面白い實際的な良考案だと思ふ。或はこれが急先鋒となつて大に社会を驚醒し、この種、家なき幼稚園の流行を見るに至るかもしれない。シツカリやつて頂きたい。私も相応な声援と物質的の援助をも辞しないつもりだ。この上、善は急げで一日も早く実現するようにしてもらいたいものだ。……

本山 彦一

私がこのような案でも室町父兄たちの了解を得て児童界に実現する日の少しも早からんことを祈ります。

適当な先生の心当りもできておりますが、更により人を御すすめ下されば結構に存じます。

どうか「家なき幼稚園」の別項の「実行案」を御覧下

さいまして、御会得が参りましたら御子たちの御入園を切望いたします。（実行案は別記）

室町七番地

発起人 橋詰良一

以上の趣意書にあります通り、私の第一の希望は「家なき」というところにあつて「家」というような大人が工夫した建物から子どもを解放することであると信じたからです。「家なき」という言葉には生硬なきらいのあることは十分に知っておりましたがあくまでも園舎というような建物にとらわれないことを強調するために名づけたもので、理学博士の山本一清氏等は最近に「家要らず幼稚園」と名づけたらどうかと真面目に言つて下さいました。その他にも色々の改名案を持ち寄ってくれる人が絶えないうちに、とうとう八年の月日を経過しました。

名まえなどはどうでもよいので、今更改めるにも及ばないとは思いますが、強いて改めるなら「自然幼稚園」とか「大自然幼稚園」「野の幼稚園」等がよろしかろうと思つています。

#### 第四 最初の理想案

前記の趣意書に添えて、私の配布した最初の実行案が、また最初の理想案でもあります。

##### △『家なき幼稚園』の実行案

一、「家なき幼稚園」に入園する子供たちはお道具として「小さな三脚いす」一つだけを準備すればよろしいのです。時によってお弁当もいります。

一、園児は毎朝家に待っていていればよろしいのです。

一、先生は、折々順序をかえて家々へ児たちを誘いながら路上保育（唱歌、行進）といったようなものを実行します。愉快に話しながら歩くのもよろしい。（これが毎日の家庭訪問にもなります）

一、皆が揃ったら自然の保育室で自由保育を行ないます。

一、自然の保育室とは呉服神社の森、猪名川の木かげ、大光寺の林、城山の平地、室町の町々、周囲の野原、至るところにございます。そこに三脚いすを並べて好きな保育をするのです。

一、木の実も草の葉も花も、ちょうも、魚も、真に神さまから下さった子供たちへの恩物です。うぐいすの声もかえる

の歌もみんな児たちを遊ばせる神さまのコーラスです。

一、暖かい日にも、寒い風にも浸りながら大自然のふところを占有して何にも妨げられない自由な自由な保育を先生にしたいだこうというのです。

一、いわゆる幼稚園ではないのですから規則に囚われることもないでしょう。時間も定めなければ休みも定めません。

一、雨が降れば休みです。寒さが強くても休みです。暑いときにも休みます。しかしお座敷でも貸していただく家があったらすぐ開きます。

一、ある建物を折々は貸してもいいとおっしゃって下さる方もありますが、テントぐらい建ててもよろしい。

一、こうして純真な自由保育を自然保育室に試みたいというのです。

一、したがってこんな保育に適した先生がほしいのです。

先生は幼稚園の全部です。そして子供たちは先生の全部です。

一、当分は月謝を月に三円ぐらいにしたいと思います。

右のうちで開園後にだんだん変更しなければならなかったことや、またはついに理想に止まって、行ない得なかったこともあります。この二、三を除けば今もお最初のまま

に行なっているものが多いのです。

### 変更した項目

入園の当時に持ちよってきた、たたみいす(最初の考案は画家の写生に用いるような三脚いすでもとしていたのですが、いろいろ研究の結果、四脚のたたみいすにしたのですが)それが、百になった時(二年目をすぎて)に入園金と変更しました。このたたみいすは今なお使用しております。

また最初は園児が家に待っていると、先生がその家々へ誘いに行つて、歌いながら手を引いて次から次へと回っていくことも路上保育であると考えていたのでありますが、それは全く空想でありました。かつて同様のことを思いついた人もあったようですが、畢竟は空想にすぎなかったと思います。何分にも幼稚園に行くことを楽しみきっている幼児を家に待たせておくことは、なかなかできないことで、最初の事務所にしてあった私の小さな家の門口へ、早くからワイワイつめかけてきて、その混雑は名状すべからざるものになりましたから、開園後数日で集合所をお宮様と決めました。

### 着手の主要点

園の実行着手の主要点としたところは、

(一) むすめと母との協力

(二) 幼児を回遊(連れて遊び回ること)に導いて行くこと

(三) 小使という特別の使用人なしに車を交互に押して行くこと

以上の三項目を要件として実行に着手しました。が、労役にはどうも最初から母や姉を使用することの困難もありましたので、とにかくにも女中のような人をやとってはじめてました。

### 第五 開園の経過と準備

今日から見れば、いろいろたくさんに必要なこと、便宜なことも考えられますが、それはおいおいに一般の参考として申し述べることにして、ここではまず私の実行した、心と過程を聞いていただきたいと思います。

#### 園児の募集

これは前にあった「趣意書」と「実行案」とをかねて私の主張を理解してくれている人へ送って、その人々の紹介や直接申し込みによる園児を集めることにしました。

最初は二十人もあればと考えていたのですが、意外にも六

十人ほどの申し込みを得ましたので、その父兄たちを町の倶楽部へ集めて十分理解のできるように懇談をしました。

#### 独自の発起と着手

「およそ一切の計画には二つの注意すべき事項がある、一つは絶対に善であること、一つは実行が容易であること」といったルソーの言葉に始終私は教えられておりました。したがって、その実行を容易にするために、無用の依頼や逡巡をしないことは何事についても私の平素の主張でした。

私は、この園の創案についても、実行についても、一切を自己一人の責任として、決して他によったり、頼んだりするような、姑息な行き方をしないと決心しました。

ですから、相談やせんこうに力を労することなく、何でも即決即行を主義として参りましたため、議論倒れになったり、文句倒れになったりする弊からは免れることができたと信じています。

#### 保母の採用

私の一番苦しんだことはこの最初の保母の採用をいかにするかということでありました。しかしどうしても妙な因縁による紹介や推薦によって人を採ることは避けたいと考えまし

たので、まず新聞の三行広告に左の通り書いてみました。

「家なき幼稚園というものをつくる、保母入用、希望者は池田室町橋詰へ」

ところが三十人余の希望者が二日の間に殺到したので三日目にその人々に会ってみますと、驚いたことには皆長らく保母をしていて、今は恩給をもらって遊んでいるという老婦人ばかりで、私の熱望していたような若い人は一人も見られませんでした。

が、来た人の中から最も年若いと思われる二十四、五歳から三十歳位までの保母を二人だけ来てもらうことにしましたけれどもこの人たちは一年も継続することができなかった。そして皆家のある幼稚園からの落ちぶれを嘆息して、逃げて行ってしまいました。

#### うれしかったわが子の協力

野の幼稚園を始めてみた最初に私を泣かせた一番大きなものが、保母の得がたいことであつたことは、この通りでした。

それは給料のための財源を持たないからでもなく、学才の高きを望むがためでもなく、実は、家というものを持たぬ野の中の幼稚園であるがため、家から野へ……の落ちぶれを

感ずる人ばかりがあつて家から野へ……の尊さ、気高さを感じてくれる人のあまりにも乏しかった悩みでありました。

泣くように訴える、おりおりの私の吐息を、いつとはなしに聞いていた私の娘、それはちょうど女学校を卒業になっていた芹子が「手伝いましょうか」という思いがけない言葉に私は思わず手を合わせたいような心地が起りました。

そして芹子が園へ来ると間もなく、お連れの嬢さんたちが、手伝いに行きたい行きたいといひ出して、初めて、私の望んでいた純なる若い女性を子どもの国へ迎え入れるようになりました。

卒然として、園は若がえつてまいりました。ういういしい人の歌う声に引きつけられて心からの声を張り上げる子どもが生まれて来たように見られました。

家では気儘ばかりいつていた娘も、園では何と思つてか真剣になつて私のかわりに苦勞してくれるようにも思われます。親馬鹿の加減でもありませんがうれしくてたまひませんでした。

今はもう若い母アさまになつて、園にはいないのですが、そのかわりにまた次の娘が女高師の保母科から帰つて、大阪の園を手伝つていくくれるのもうれしい。

愚鈍な上に園長の身うちだというので面倒を傍へかけるの

も多いには違ひないが、親としては子心に励まされて、何かを教えられるように、また慰められるようにも思いながら、子に感謝する気持ちを抱き得るだけでも、大きな恵まれであることをひそかに喜んでいるのです。

つまらぬようなことですが、理くつや財物では買うことのできない、愛の道場でのよい恩物です。大人へのよい恩物です。ほんとに神の恩寵を感謝しなければならぬとおりに思ひかえさせられています。

#### 園の場所

園は自然の野の中ときめておりますが、集合所としての場所を呉服神社の境内とする案に、神主の同感を求めることがなかなか難儀だとされていました。

しかるに、それは思ひのほか快よく承諾を得ました。その上、雨の日や酷暑の日には、絵馬堂を使用してさしつかえないという許しをも得ましたので、いよいよ用具の準備ということになりました。

#### 用具についての解説

私は、私の幼稚園、野の幼稚園を開くについても、なるべく簡便に、どこへでも持つて行けるものを用意するにとどめ

たいと思いました。したがって其の用具の一つ一つもできるだけ便利に幾重にも利用させようと考えました。もちろん、ふるい伝統から何と評されようとも、初めてそれに接する子どもの眼には、子どもの頭にはいずれも立派な神聖なものと考えられるにちがいないだけを確信して、更に心配なしに便利だと思いついたものを取り、用いようといえました。

今でもその方針は依然として実行しておりますが、ずいぶん重宝なものが世の中には捨てられてあるように思われます。

1 日記には「当用日記」廉価で便利にできている「当用日記」くらい重宝なものはない。しかしそれを学校や幼稚園の日記に使用しているところは少なく、妙に自家の考案した帳簿でなければ使用しないところに教育者気質があるようですが、私たちは最初からこれに定めていました。この簡易主義を喜んでくださった教育家には倉橋惣三氏があったが、其他の帳面も一切「ノート」にしているのを見てあまり無造作すぎると苦笑したのは、一番最初に来てくれた中年の保母さんでした。

2 たたみいす これは、子どもの持ち歩きに適した重さのもので、開いた時の地から高さが(直立)八寸ぐらいにしております。最初から大阪府立職工学校で作ってつかいまし

たが二円七、八十錢ぐらいと思います。

積んだのおろす時か、積み上げることのほかは、一切を子どもにさせていますが、たたんだ中へ手を入れて、肩にかけると都合よく運び歩けます。(ずいぶん遠方まで運んで行った記録が回遊の項にありますから参照)

これをいすにして腰をかける時には布を張った木の部分を左右にし、布の部分が前と後になるように置かせて、腰をかけさせると非常に楽なようです。

これをいすにして、別項のかり机に向かわせたらそれで保育室ができるのですが、更に便利な方法があります。それは、このいすを机に代用する方法です。それは別項にある半ごさを敷いて、その上に子どもをすわらせ(足を前に投げ出して)その前(足の間)にこのいすを置きそのいすの上へボール紙の板、粘土板のようなものを置けば机になります。

私の園では、回遊の場合(あまり遠くへはいすを持たせませんが)に利用いたします。

3 運びやすいかりの机 これは「板」と「馬」とで作りますので、どこへでも運んで行かれます。「板」は長さ六尺、幅一尺厚さ一寸ぐらいでどの園でも大概「板」六枚、「馬」十二ほどを用意しております。

夏などは特に集合所に近い森や林の中へ持って行って、そ

こへすぐさま保育室を作ります。

「馬」を二つ並べて、其の上へ「板」をわたすだけです。から、子どもがよりかかったら板が落ちるだろうと心配する方がありますけれど、落ちますから子どもは決してよりからなくなりません。したがって子どもは知らず知らず姿勢が正しくなるようです。しかし心配ならば動かぬように止め木をつけて置いてもしょろしので、私の園でもあるところは其のようになっています。

この「馬」の片方をのけて子どもは便利な滑り台にしたり、木煉瓦を足して一層急な滑り台を創ったりします。また「板」と「ござ」とを混用していろいろのお座敷と板間ができたります。「馬」もたくみに遊戯道具となつて、奇想天外の応用材料に使われます。

4 木煉瓦をたくさんに 普通木煉瓦と同じ大きさの木煉瓦を百も二百もと、その長さを二倍にしたものを五十か百かと三倍のものを五六十、四倍のものを三、四十でも作つて置いて子どもの使用に任せるのです。別項説明の通り実にこの木煉瓦で創り上げる子どもの想像生活の成果を見る時、誰でも驚かないものはないでしょう。

木材の豊富な田舎へ行くほど便利に得られると思います。が、木煉瓦の表面はのこぎりびきのままのザラザラしたのが

地の上や土の上で用いさせるにはよいようで、すぐになめらかになります。

「ザラザラで、子どもたちの手がいたむ……」など言つた観たちがありますが、それは全然杞憂に過ぎなかつたことを今日では確証いたします。

土に親ませる子どもへの恩物は、何でも繊細なことばかりを考へて来た机の上の恩物ばかりを標準にしても役立たないことが多いようです。

木煉瓦制作の面白さは別項の愛の日記抄録文を見ても想像ができると思いますが、僅効率によつて割り出されている大人の建築用材を単位として、更にそれを幾倍の長さに見たまでの簡単なものですが、非常に子どもの創造欲をそるに適した素質を具備しているように思われます。(野の石つめなどにも面白い連絡が見出されます) これを使用させる場合も各自に運び出させ、各自に片づけさせることももちろんです。

5 半ござと一人ござ 普通の畳表の大きさをタテに半切したものゝを「半ござ」といつて重宝にしております。一枚に七、八人は尻をおろしていこわれますから五、六枚も用意して置いて、小さい乳母車か何かで運んで行けば、これこそ野の幼稚園にはなくてはならぬものになります。

近ごろは、一人一人に持たせる小さな乳母車を作つて見て、布袋に入れてめいめいに携帯させて見えています。(中略)

6 運ばれる楽器 野へでも林でも運んで行かれる楽器という心配は最初からかなり私を悩ませました。

最初は「ペビーオルガン」を乳母車に積んで出たのですが、「ヴァイオリン」を考えて見たり、「ハーモニカ」を考えて見たりしましたがなかなか困難です。池田では小さな卓上オルガンを車に積んで長らく使用して参りましたが、近ごろでは乳母車の中へオルガンを私が工夫して取り付けて其のまま弾かれるようにして見ました。その上へござも、雑物も積み込んで行きますが便利なようです。

特に私の主張する「家庭めぐり」に必要なもので、昨今、池田の園で非常に喜ばれています。

この他、幼児集合所にはやや大きな、よい音のするオルガンを準備してありますができることなら自由に子どもにも使用させてやるため一台ぐらいの開放がしたいものです。(私は日本楽器の連想浄化ができた後、または浄化運動を行ないつつ三絃を童謡に使用する企画をもって今実行しかけています)

7 簡単な救急箱 野を歩く子どものためには是非とも救急箱の用意がいります。かばんのようにして先生が肩にかけて行くのもありますが、大概是車にのせて行きます。主な薬

品は

・アンモニア(虫にさされた時のため)・セルマトール(内用にも外傷にも)・メンソレータム(万能のもの)・アルコール・ほう帯・ガーゼ・脱脂綿・油紙等、このほか注意深くするために加えるものは幾らでもありましょう。以上はどこ幼稚園でも必要なものですが、更に左のようなものがほしい。

#### 8 蓄音機と名画類 (中略)

9 一般の保育用具 一般の保育所に用いられている幼児保育用具、特にフレーベル氏の恩物やモンテッソーリ教具などの中から、幾らかのものを留意しておいて、適当な時期にそれを使わせる便宜のあるようにとつとめて来ましたが、かの積木などは三百、四百と買つておいて、それを一度に多く持たせて存分なものを創らせるように仕向けてまいりました。また自然から粘土を取って来て粘土細工をさせたり、木の実や草の葉など(いわゆる自然恩物)によって手技をさせたりするための用具は相応に用意しました。この他、参考書や、雑具やを数えると家なき幼稚園の集合所が、雑具小屋のように見えるところさえあります。

10 砂箱のご用意 山や川で自然の砂箱は使われますが、集合所の附近にも是非ほしいと思います。(つづく)